

っておりますので、この部活動の推進を、地域移行を進める上でも、なお一層の地域との連携等を大事にしていきたいなという思いでございます。

まだ時間ありますので、もう1点だけ、教育長に質問させていただきたいと思います。

現状を見ますと、学校の部活動は生徒の自発的、自主的な活動であるという以上に部の成績が学校の評価として捉えられているような気がするところでもございます。そうだとすると、学校が部活動の地域移行に消極的になるようなことも思うのですけれども、そうした心配はないのでしょうか。学校の受け止め方に関し、部活動の成績が学校評価になっていないかという観点で改めて伺います。

○浅野敏明議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 学校の一つの誇りとして、自分の学校で先輩がこうやって頑張っていて、例えば優勝したとか、それから県大会で何位取ったというのは、これは私は非常に大事なことであると思います。学校の誇り、先輩への誇りというのは、これは大事にしなければいけない。ただ、一方で、先ほど話ありましたように、それが学校の評価になるという狭い考えでいる校長は私はいないと思います。それは心配しなくて大丈夫だと思います。

部活動を頑張るのは、私も部活動をやってきた人間なので分かるんですけども、やっぱりその中で子供たちが伸びる価値とか、そういうのがあって頑張っているものです。ですから、先ほどの調査書の話もありましたけども、調査書のために頑張るといふ子供はいないし、そんな指導を私はしてないと思います。結果としてこういうふうなものがあるって、結果としてこういうふうな実績があるって、それは胸を張ってちゃんと評価してもらおうというスタンスだと思います。むしろそういうふうには何か結果を評価項目として推したいという思いのある子供、もし

かしたら親御さんがいるとすれば、これは違ふとしっかりと行って導くのが学校の役割かなと思います。

○浅野敏明議長 3番、渡部正之議員。

○3番 渡部正之議員 確かに本当にそういう結果を求めるようなことは現状として校長先生などは思っていないと思いますけれども、やっぱりこの部活動移行は、校長先生をはじめ教員の皆様のご理解もやはり必要だだと思いますし、あわせて、生徒、保護者、そしてスポーツ団体の皆様、こういった方々と本当に丁寧に理解をしていただきながら進めていっていただきたいなど私は強く思っております。短い期間ではありますが、関係部署、連携しながらスムーズに段階的にではありますけれども、進めていただきますようお願いを申し上げまして、私の質問に代えさせていただきます。

○浅野敏明議長 ここで暫時休憩いたします。再開は午後3時10分といたします。

午後 2時43分 休憩

午後 3時10分 再開

○浅野敏明議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

それでは、市政一般に関する質問を続行いたします。

渡部秀樹議員の質問

○浅野敏明議長 次に、順位5番、議席番号8番、渡部秀樹議員。

(8番渡部秀樹議員登壇)

○8番 渡部秀樹議員 お疲れさまでございます。

本日最後の一般質問をさせていただきます。緑風会の渡部秀樹です。よろしくお願いいたします。

本市は、美しくアヤメの花が咲く季節を迎えております。梅雨入り間近の田園地帯を見渡すと、水田は美しく水をたたえ、いぐねに囲まれた山居のたたずまいは日本三景、松島に匹敵するほど美しく、ぜひ観光客に早朝の山居のたたずまいを見ていただきたいものだと思います。この美しい田園地帯を守り育ててきた農家の皆様に感謝であります。

先日、3年ぶりに消防演習が行われました。私も一消防団員として、朝の内演習から参加し、整列、休め、気をつけ、頭中、休めと繰り返し、各団員の一体感、各幹部団員の凜とした号令、心地よさを感じながら、この熱く心強い仲間たちとともに、これからも消防団員として市民の生命と財産、生活を守ろうと強く思った3年ぶりの演習でありました。

それでは、通告に従って質問させていただきます。質問は大きく3項目ございますので、順次お答えいただきますようよろしくお願いいたします。

1項目めは、デジタル技術の活用についてお聞きいたします。第五次総合計画後期基本計画の将来像として「みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井」を掲げ、市政運営に取り組む本市のまちづくりについて、確認と提案をさせていただきます。

1点目は、スマートシティ長井実現事業の進捗状況等と今後についてお聞きいたします。

最初に、本年度から本格的に実施しているスマートシティ長井実現事業の進捗状況と実際に事業を推進してみたの感触について、市長にお聞きいたします。また、今後の事業予定についてもお聞かせください。

現在、本市では、NTT東日本と連携し、デジタル技術を活用して地域の課題を解決する、

いつまでも便利で安心して暮らせるスマートシティ長井実現事業に取り組んでおり、地域の魅力をそのままに大都市に負けない利便性と可能性を探り、持続可能で生涯通じたゆとりと安心のある暮らしを実現するため、様々な事業が進められております。

先日、デジタル通貨ながいコインの販売が開始され、多くの市民が購入のため並んでる姿から、市民の皆様の関心の高さを確認させていただきました。そこで、スマートシティ長井実現事業の進捗状況と実際に事業を実施してみたの感触についてお聞きします。また、今後の事業予定についてもお聞かせください。

2点目は、スマートシティ長井実現事業等のデジタル技術を活用した事業の推進について、学校教育として期待している点を教育長にお聞きします。

現在、本市では、スマートシティ長井実現事業を含むデジタル技術を活用した事業が推進されています。子供たちの社会生活はもちろんのこと、学校生活も大きな変革をもたらすのではないかと思います。デジタル化社会に併せ、GIGAスクール構想など、急激に変革している学校教育の視点からお話しいただければ幸いです。

続きまして、2点目は、統合型地理情報システム、統合型GIS導入の提案等についてお聞きします。

最初に、本市の都市地図や公有財産台帳等の電子化の現状について、市長にお聞きします。

日本の各自治体や大企業では、20年ほど前から地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持った空間データを総合的に管理、加工して視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術である地理情報システム、GISが導入されています。地理情報システム、GISは、都市地図などの底図の電子化と公有財産台帳データ等の初期データさえ整えば、変更箇

所のデータを更新するだけで非常に便利に使い、汎用性も高いシステムと言えらると思ひます。

そこで、本市の各課の都市地図や公有財産台帳等の電子化の現状についてお聞きいたします。

次に、統合型地理情報システム、統合型GISの導入について提案いたします。

この質問は、議長のお許しをいただき配付させていただきました資料の質問事項1-(2)-②もご覧になりながらお聞きください。

さきの質問のとおり、地理情報システム、GISは、地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持った空間データを総合的に管理、加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする画期的な技術です。そして、地方自治体が所管する路線網図や上下水道管網図、公有財産台帳、文化財の位置情報と文化財台帳、公共交通の路線図など、あらゆる位置情報と公有財産台地をミルフィーユのパイ生地のように重ね、まとめ、レイヤー管理するシステムを統合型GIS、統合型地理情報システムといひ、庁内での横断的なデータ共有により各課で行っていたデータ整備コストの削減やデータのそごを防ぐことができます。

また、構築された様々な共有空間データをその用途により公開型GISとして、地方自治体のホームページに危険箇所、避難施設などの防犯・防災情報、福祉施設、病院などの福祉・医療施設情報、学校、コミュニティセンター、市役所などの公共施設情報、バス停の位置情報など公開できるほか、住民から意見や要望といった投稿を受け付けることもできます。行政サービスの向上や住民とのコミュニケーション向上に役立ちます。

そして、公開された共用空間データは、民間企業による住宅地などのミニ開発やマーケティング時の正確な位置情報となります。さらに災害箇所の確認や災害時の避難経路の確認、住民避難経路マップの作成なども容易になります。

かつては航空機による高額な航空撮影を必要としていましたが、デジタル技術の発展とグローバルポジショニングシステム、GPSの活用やドローン撮影などの位置データの把握など、データコストも徐々に下がっているのが現状のようです。

そこで、デジタル技術を活用したまちづくりや事業を推進している本市のさらなる業務の効率化や高度化、市民による活用や新たなビジネスチャンスの創出のため、統合型地理情報システム、統合型GISの導入について、市長のお考えをお聞きします。

2項目めは、豪雨、豪雪対策等の災害対策等についてお聞きします。

近年の気候変動により頻繁に起こる局所的なゲリラ豪雨等による豪雨災害や災害級の豪雪への対策についてお聞きします。

最初に、頻繁に豪雨災害が起きているまちなかの河川改修の進捗状況について、市長にお聞きします。

以前、まちなかの内水対策として幾度かお聞きし、河川網図を作成し、河川改修計画を立て、計画的に整備を進めると答弁いただきましたが、その後の進捗状況についてお聞かせください。また、今後、優先的に改修する予定箇所があればお聞かせください。

次に、近年、頻繁に水防活動に従事する消防団の装備として、緊急排水用エンジン付水中ポンプの配備について、再度提案させていただきます。この質問は、議長にお許しをいただき配付させていただきました資料の質問事項2-(2)もご覧になりながらお聞きください。

以前にも数回同様の質問をさせていただきましたが、近年、消防団が水防活動に従事する機会が多くなっており、令和元年、台風19号による豪雨災害や令和2年の7月豪雨の際にも、消防団は、市内各所で土のう積みや排水作業に従事しました。今後もこのレベルの豪雨が頻発す

る可能性があります。

以前も申しましたが、消防団のポンプは、少ない水で効果的に消火作業を行うように作られているため、排水作業に向かず、これでは市民生活を守れないと、実際に排水作業をして、私たち消防団は痛感しております。さらに消防団に配備されている消火用のポンプは大変高価で精密な機械であり、砂利や泥水を含む増水した河川の排水作業はポンプの故障を招きかねません。これは火災消火活動を主とする消防団にとって致命的です。

また、お手元の資料にあるとおり、愛媛県東温市では、出番は少ないほうがいい、ただ、なくてはならないものとして、緊急排水用エンジン付ポンプの配備をし、消防団はいつでも対応できるようにしっかりと取扱訓練をしているようであります。

そこで、市民生活を守るため、近年頻繁に水防活動に従事する消防団の装備として、緊急排水用のエンジン付水中ポンプの配備について、再度提案いたします。市長のお考えをお聞かせください。

次に、災害級豪雪時の対策について提案させていただきます。この質問は議長のお許しをいただき配付させていただきました資料の質問事項2－(3)もご覧になりながらお聞きください。

令和4年3月定例会でも関連する質問をし、各地区のコミュニティセンターや自主防災組織との連携、活動支援等について検討する等の答弁をいただきました。しかし、昨年度のような災害級の豪雪から市民の財産と生活を守るためには、消防団への緊急的な除排雪依頼が今後必要になることが予測されます。昔は各地区に大勢の若者が住み、日々当たり前前の生活として、地域の生活環境を整えておりましたが、現在は若者が居住しているエリアはまれであり、既に共助の限界が来ているエリアも多いと思われま

す。

また、お手元の資料にあるとおり、平成30年3月4日に、尾花沢市では、市内高齢者住宅など18か所を消防団員346人により除雪作業が行われた事実もあるようです。

そこで、災害級の豪雪への対策として、地域の若者が多く所属する消防団への除雪依頼等について提案いたします。市長のお考えをお聞きします。

3項目めは、観光振興事業関連についてお聞きいたします。

第五次総合計画後期基本計画の観光振興分野で示されている目標として、交流人口を増加させ、地域経済に貢献する観光とありますが、この裾野の広い観光産業の推進について、確認と提案をさせていただきます。

最初に、獅子舞の活用等についてお聞きします。

1点目は、本市の各神社や団体が所有する獅子頭をお借りし、長井駅やタス、道の駅などで観光や獅子舞文化のPRのための展示、紹介、交流イベントなどについて提案させていただきます。この質問は、議長のお許しをいただき配付させていただきました資料の質問事項3－

(1)－①もご覧になりながらお聞きください。

観光事業において、地域の特色あるお祭りは、その重要性は高く、世界を見れば、色鮮やかな衣装とサンバのリズムで踊り歩くブラジル・リオデジャネイロのカーニバル、真っ赤なトマトを投げ合うスペイン・ブニョールのトマト投げ祭り、日本では、きらびやかな山鉦のタペストリーから古代の日本と中東やシルクロードとのつながりが読み取れる京都祇園祭、100艘を超える船団が大川を行き交う大阪天神祭など、他に類を見ないほどの特徴を持つお祭りは重要な観光資源となっております。

本市も、さきに行われたながい黒獅子まつりでは、県内外から黒獅子ファンにも来ていただ

き、大いににぎわいました。しかし、せっかく他に類を見ないほど特徴的で若い世代も多く参加している長井の獅子舞としてPRが少なく、観光資源としての掘り下げももう少しできるのではないかなど、率直な声を黒獅子まつりの会場でお客様にお話しいただき、私もなるほどと思うところもありました。

そこで、本市の各神社や団体等が所有する獅子頭をお借りし、長井駅やタス、道の駅などで観光や獅子舞文化のPRのため、展示、紹介、交流イベントなどについて提案させていただきます。市長のお考えをお聞きします。

2点目は、ながい黒獅子まつりなどのイベント時に各地区と会場を結ぶ特別周遊バスの運行について再度提案させていただきます。

以前も同様の質問をさせていただきましたが、今年もコロナ禍に負けず大成功に終わったながい黒獅子まつり、市内の方々からは、町場の人はよいが周辺地域の我々はちょうどよい移動手段がなく、黒獅子まつりになかなか来られない、でも、見に来ると、とてもよいお祭りだ、来年も来たいとのお話をいただきました。

私は、観光地が観光地たるところは、その土地に住む人がその土地のよいところを知っており、一番のファンであるところだと思っております。市外の方はもとより、市内周辺地域の方々にももっと見ていただく手だてが欲しいと改めて感じました。

そこで、ながい黒獅子まつりなどのイベント時に各地区と会場を結ぶ特別周遊バスの運行について、再度提案させていただきます。市長のお考えをお聞きします。

3点目は、本市の各神社で行われているお祭りの獅子舞やながい黒獅子まつりを学校側ではどのように捉え、どのように指導しているのかお聞きいたします。

私自身、獅子舞は小学校の頃から始め、子供たちの指導を高校1、2年生の頃からするよう

になり、現在に至りますが、教える側と教えられる側で支え合い、学び合いながら、気がつけば42年の獅子舞キャリア、31年の獅子舞指導キャリアになります。恐らく市内の各神社でも、毎年同じように、地域の皆様に支えられながら地域の仲間や地域の子供たちと共に稽古し、お祭りの準備をしながら、お祭りの日を迎えているのかと思います。

そこで、多くの小・中学生が参加し、地域の子供たちと地域の大人たちが助け合い、教え合い、協力し合いながら地域文化の継承活動をしている本市の各神社で行われているお祭りの獅子舞やながい黒獅子まつりを学校側ではどのように捉え、どのように指導しているのか教育長にお聞きします。

次に、その他観光振興事業についてお聞きします。

最初に、人気アニメ「ポケットモンスター」ラプラス型足こぎボートの運航について再度提案させていただきます。この質問は、議長のお許しをいただき配付させていただきました資料の質問事項3-(2)-①もご覧になりながらお聞きください。

以前、ながい百秋湖の湖面活用事業として提案させていただき、市長からは、水位の変動が多く、浮き桟橋の設置が難しい、ながい百秋湖ではなく古代の丘にある中里堤での運航の検討はどうだろうかというような答弁をいただきました。

コロナ禍の影響からアウトドアブームはソロキャンプ、ファミリーキャンプを中心とする第四次に移行していることもあり、昨年から古代の丘の野外活動利用者は多く、子連れの家族の姿がよく目につきます。美しい自然を生かした観光の切り口になる可能性は十分にあると思いますので、市長のお考えをお聞きします。

最後の質問になりますが、ご寄附いただいた芸術作品等を活用し、デジタルアーカイブ事業

等を含めた文化芸術観光の推進について再度提案させていただきます。この質問は、議長のお許しをいただき配付させていただきました資料の質問事項3-(2)-②もご覧になりながらお聞きください。

以前も質問させていただき、市内の文化施設や公有施設等での展示は、展示数や展示場所が限られ、意外に難しいというような答弁をいただきましたが、作品をデジタルアーカイブ化して保存し、デジタルライブラリーとして活用すれば、それほど場所を取らずに展示できるのではないのでしょうか。市長のお考えをお聞きします。

私は、この長井市を清らかな水と緑に育まれた、美しい花咲く、文化、芸術とものづくりのまちだと思っています。

まち歩きや飲食店など、まちなかの資源を生かしたまちなか観光、郊外の自然を生かしたアウトドア観光、美しい田園風景を生かした田園観光、ものづくりの現場や特徴的な建物を生かした視察観光、地域産業に着目した産業観光、獅子舞などの風土・文化と本市にゆかりのある芸術家の作品などを生かした文化芸術観光など、本市の生かすべき切り口、観光のスタイルは多々あります。

現在、生かし切れていない、ご寄附いただいた芸術作品等を活用し、さらにデジタル化の波に乗り、デジタルアーカイブ化することで、文化芸術観光の振興ができるのであれば、魅力的な資源になると思います。ご検討のほどよろしくお願いいたします。

壇上からの質問は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

○浅野敏明議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渡部秀樹議員から、大きく3点、そして、中項目では7項目ですね。細部にわたりますと12項目にわたりますと、いろいろご質問やご提言をいただきました。

うち、私は10点ほど答えなきゃいけないということで、私と教育長2人での答弁になりますが、できるだけ簡潔にお話ししたいと思います。項目が多いので少し早めに、早口でお答えしたいと思います。まず最初のデジタル技術の活用についてでございますけれども、渡部秀樹議員からは、スマートシティ長井実現事業の進捗状況と今後についてと、実際に実施した感触、今後の事業予定についてということでございますが、まず、各論に入ります前に、なぜ私ども長井市のほうでデジタル人材を、ほかの、山形県内ではうちしか手を挙げなかったみたいですね、最初。東北でも3都市だけが採択していただいて、全国で30か所ですね。

これはなぜかというと、デジタル技術というのが、今、午前中からずっと話題になっている人口減少を食い止める大きな鍵を握ると私は感じたので、デジタル技術というのは私は分かりませんが、一つはこのデジタル技術が、ICT技術、AI、またドローンとかロボットとか、様々な次世代のGPSも来年、また進むと言われております。5Gから6G、こういった技術が進むことによって、結局、私どもの子供や孫がなかなか山形県内、長井市はもとより、自分の就きたい仕事なくて、首都圏を中心とした都会に行って、そのまま戻ってこない。これはもう進学、そして就職もそうなんですけども、これを何とか打破するには何が必要だろうといったときに、正直なところ、打つ手がないわけですね。

特に山形県の場合は東京まで普通に行って、片道3時間ぐらいで大体行けますので、非常に行きやすいということで、全国一、女性が転出している県だと以前から言われていました。

ところが、このデジタル技術が進むと、いわゆる住むところを選ばなくなるんじゃないかと。それが実際、今回の新型コロナウイルス感染症のパンデミックで、ある程度そういう方向もあ

るということは見えたわけですね。

したがって、デジタル人材の派遣に手を挙げて、そして、幸いにも長井市の職員が頑張っていたいただきましたし、また、その体制づくりも幹部職員の皆さん、しっかり取り組んでいただいたので、スマートシティ長井の地方創生推進交付金事業、これ、8億2,000万円ってすごく大きいと思います。多分、市町村での単独の事業では日本では一番大きいと担当のほうから聞いております。

ただし、これはあくまでも実証実験なんですね。感じたことは、日本はやっぱりかなり遅れているなど。私ども行政が遅れているのは当然だと思っていたんですが、ところが、民間も遅れているんですね。それは何かというと、今回、12項目の事業なんですけれども、大きく9つの事業なんです。その9つの事業をプロポーザルで手を挙げてくださいということで応募したんですが、なかなか応募してくれるところがないんです。これは、別にNTT東日本でひもつきだからということじゃないんですね。結果として、もうほとんどやっぱり首都圏の聞いたことない企業とか、あとNTT東日本の関連企業、問合せはいろいろあったみたいですけど、そこが取れなかったんですよ。

そんなことから、いや、日本は官民とも遅れているんだなと改めて、私、率直に思いました。ただし、我が国もやっぱり捨てたもんじゃないと思いますので、これから懸命にやっているわけですね。5Gは遅れたけど、6Gはトップになるぞとか、いろいろやっていますので、必ずやそういう時代がいち早く訪れるだろうと。

そのときに、私どもがいち早く取り組んでいること、それと、スマートシティというのは静岡県裾野市のトヨタなんか企業がぐるみでやろうとしています、我々みたいな小さい自治体でも頑張ればここまでできるということで注目を浴びる。

そして、同時にデジタル技術を学ぶことができるという、その土台もつくりたいと思っているんですね。これをすることによって、多分、地方に、環境のいいところに住みたい、あと自然が豊かで水が清くて山が美しい、本当に人間として心が洗われるような、そんな長井市、山形県と考えたときに、やっぱり私どものデジタル技術というのは最後の切り札になるだろうということで、実は、この先どうなるか分からないですけども、まず、そういったことでチャレンジしよう。

加えてグリーン人材、SDGsもそうなんです、カーボンニュートラル、そして、私ども再生可能エネルギーを自ら、レインボープランからさらに発展させて、これに取り組むことによって、私どもとしては、若い人から見たらすごく可能性のあるまちと映るんじゃないかなと、それを狙っております。

ちょっと前置きが長くなりましたけど、これがデジタル技術を活用というよりも、取り組んだ理由です。ですから、正直なところ、事業は進んでいますけど、これはあくまでも実証実験ですから、やっぱりそこで出てくるのは、市民の皆様を理解をどれぐらいいただけるか。ただし、今回のながいコインなんかもそうなんです、やはり私ども積極的にいろんなところへ働きかけ、なおかつ、今までとちょっと違うのは、やっぱりコミュニティセンターの皆様もご協力いただけるようになったと。若干、温度差はあるんですけども、例えば今回の伊佐沢コミュニティセンターとか、あと例えば間口除雪だったら、豊田地区がやっていたのを、今度致芳地区でもやるとか、あと平野地区は平野地区でもいろんな独自のものをやろうとか、そういう取組をなさっている。中央地区は中央地区、西根地区は西根地区、それによって、いろんな取組、面白いものができるだろうと思っています。

これ、原稿的にはいっぱい頂いたんですが、

これ、読むと非常に時間がかかるので、どういふふうにしようかなと思って、まずはスマートシティのところを質問いただいたので、手短かに申し上げますと、市営バスのデジタル技術導入による詳細な利用者データの収集とAIを活用したデマンド交通の実証実験の公共交通の最適化、これはMa a Sも含めた、そういったシステムですね。これについては、Ma a Sそのものはほかの自治体でもやっていますので、長井は長井なりのやっぱりMa a Sで、より市民の皆様の利用しやすいようなバスと。やっぱりよく言われるのは、高齢者の運転の免許返納がどんどん進んでいるぞと、こんなんでいいのかと、もっとデマンドでどんどんタクシーとか使えるようにしろと。でも、それはお金がもたないわけですよ。ですから、そういったところを、我々、丁寧に説明して、やっぱりお年寄りからすれば、それはもう我々も面倒くさいと。そんな面倒くさいことじゃなくて、タクシーをもっと利用できるように助成してくれと。でも、それはできないわけですよ。

結局、人口減少の中で、話がちょっと飛んで申し訳ないんですが、日本は残念ながら後手後手になってしまったんですね。これから、さっきも申し上げたんですが、本当に怖いと思うのは、去年生まれた子供が、白鷹町で33人というんですよ。我々100人は超えています。あと、飯豊町、小国町でも10人台って。これはまだ序の口で、もっと減るって言われているんですよ。いなくなるんです、子供は。

そういうところになったときに、日本全体とすれば、いわゆる年金、医療、介護、そこに今度出ているのは住まいだそうなんです。お年寄りだけの住まい、独り暮らしとかどんどん出てくると。特に山形県は東北の雪国で、一戸建てのお年寄りの独り暮らしなんて悲惨なわけですよ。ですから、その住まいをどうするかというのが、実は次の課題だって、この間の全国市長会で、

そういう話なども出ました。

ですから、このスマートシティを考えたときに、どうなるか分かんないんですけど、とにかく実証実験して、やっぱり市民の皆様にもいろいろ考えてもらおうと。職員は、私ども15人でデジタル推進室と、彼らが自分たちの抱えている、それぞれの担当課で課題解決になるようなものということで上げたのが、実は12項目なんですよ。そのほか、ながいコインとスマートストア、eスポーツとか、様々なものやっておりますが、ぜひ、まだ途に就いたばかりですので、もう少したたないと何とも評価し難いなど。

ただ、ながいコインについては、びっくりしたのは、いわゆるスマホ決済というのはなかなか70代以上は大変だろうと思ったんですが、割と使っておられると。それから、スマートストア、無人店舗ですよ。これらについても、最初は戸惑ったんですが、何回か慣れると、やっぱりお年寄りの方も使っていただけると。ですから、これからデジタル時代というのは、何のことはない、パソコンじゃなくてスマホですよ。パソコンじゃなくてタブレットですよ。ですから、そういったところにもうどんどん変わるわけですから、タブレットを使いこなすことが、いわゆる次の時代の利便性、本当に暮らしやすい、そういう生活を導く大きなツールなので、これは私ども、幸いにもJANがありますし、あとコミュニティセンターも法人化して、しっかりとした体制を取ることができましたので、少し時間はかかるんでしょうけども、やっぱり丁寧に説明しながら、そういったお年寄りから子供まで、みんな使いこなせるような、そんなまちにしなければいけないと思っております。

すみません、ここのところはそのぐらいにさせていただいて、後ほど、もしいろいろご質問やらご提言ありましたら、お願いしたいと思います。

あと次に、議員からいただきましたのは、統合型地理情報システム導入の提案ということで、そのとおりだと、実は提案いただいて、私も考えております。

2点ほど議員からございまして、まず、都市地図や公有財産台帳等の電子化の現状について、お話しさせていただきますと、長井市では、平成23年度から、クラウド型の統合型GISを利用してございまして、現在は水田台帳、道路網図、水道台帳、農業振興区域など、産業・建設分野のデータを中心に電子化してございまして、航空写真や住宅地図等と重ね合わせながら活用している状況でございます。

そして、議員からいただきました統合型地理情報システム、統合型GISの導入についてのご提言ですが、議員のご指摘のとおり、統合型GISの活用は様々な分野において、業務の効率化や市民にとっての利便性につながるものと認識しております。

長井市では、現在、市のホームページにおきまして、施設マップというページを設け、グーグルマップを使った、市関連施設の位置図を庁舎や学校、文化施設など、カテゴリーごとに表示しており、今後はバス停や避難所等も表示できるよう、準備を進めているところです。

ただし、建物など個別の場所を示す施設マップには、洪水ハザードマップなどのエリアや市営バスの路線図などを表示することがまだできていないために、それらについては別ページでの対応になっているというのが現状でございます。

地図上に、このような異なる要素を一体的に表示させまして、市民や事業者の皆様と共有するためには、ご提案のように、一般向けの統合型GISを導入することが非常に有効であると考えております。

一般向けの統合型GISを導入するに当たっては、一般公開するための初期費用、これが約

300万円ぐらいでございますけれども、あと利用料が月11万円強かかると、あとデータ変換作業料、1回につき約10万円などが必要になるということで、これは費用対効果でいったら、多分、これぐらい、これ以上、お金を費やしたとしても、これは必要なことなのかなと。いずれかの時期に、対応しなきゃいけないと思っています。

あと、レイヤーの一つとなる航空写真の定期的な更新については、撮影範囲が広大であることから、ドローンによる撮影は適さず、ヘリコプターでの撮影になるために、1回での更新で、1,000万円以上の経費を要するというところでございます。現在、庁内で利用されている統合型GISの航空写真も、市として撮影したのではなく、国土交通省や都市改良区で撮影したデータを提供していただき、使用している状況です。

県内で、統合型GISの一般向け公開を実施しているのは山形市のみで、他県においては、経費低減のため、システムを共同利用している事例もあるようですが、統合型GISの一般公開が進んでいない理由の一つとして、システム運用やデータ更新に係る経費あるいは人員体制の問題が上げられるんじゃないかと思えます。

このような状況を踏まえまして、一般向けの統合型GISの導入については、公開する情報の範囲や導入後の運用の在り方等を含めて、調査、研究を行いまして、今後、計画的に検討を進めていきたいと考えているところでございます。

続きまして、大きなご質問、ご提言項目の2点目、豪雨・豪雪災害等の災害対策等についてございまして、議員のほうから、まず最初に、頻繁に豪雨被害が起きているまちなかの、以前の市長のほうから答弁あった河川改修の進捗状況について、どうなっているかということでございます。

確かに、渡部秀樹議員のご質問に対して、や

っぱり特に長井のまちなかの市街地の河川については、これは重要河川ということで、市の管理の河川なんです、市街地の上流じゃなくて真ん中辺り、中流あるいは下流でいろいろ問題あるんですね。でも、中流で下手にやっちゃうと、今度は下流が大変になるわけですから、やっぱり網図を作んなきゃいけないということと、あと同時に、これらの網図を作って整備をしようと思ったら、莫大なお金がかかって、なおかつほとんど単独事業になります。したがって、そう簡単にはできないぞということは以前も申し上げたと思います。

したがって、何を基準にこの整備をしようかというのが、長井はみずはの郷で、長井の特にまちなかの水路については、フットパスも含めて、まちの観光資源、水資源、すなわち我々のまちの財産でもあるんですけども、それは取りも直さず観光資源にもなります。したがって、その観光資源を生かすということで、国土交通省等々の補助を受けながら、整備をやってくしかないだろうと。やはり今回、国のほうでは緊急の国土強靱化の予算として、5か年計画、3か年から5か年ということで、特別に、特に集中豪雨等々が頻発しておりますし、そんなことでしゅんせつ債を認めたりとか、しゅんせつというのはいわゆる土砂を河川にたまったのを上げるわけですけど、そういったものは以前はいわゆる起債なんて認められなかったわけですね。それをしゅんせつ債ということで、しかも7割補助でやれるんですが、これはおおむね県なんです。県の河川までで、我々の管理の河川については、それはほとんど認められないということでもありますので、そういった縛りがあります。

一方で、やはり議員から質問あって、また、長井市では一番最近ですと、平成14年あたりから、集中豪雨等々で被害が少なからず出ました。大きく出たのは、慈光園が水浸しになったりと

か、あと金井神地区、伊佐沢地区が大変な集中豪雨等々で被害ありました。平成25年、26年、2年連続でしたけども、その辺りからやっぱり国のほうでもそういった支援をしていただいています、そうした中で、まちなかでのポイント、特に高野町のところとか、常時、水があふれて、消防団の皆さん、頑張ってる土のうを積んでというところについては、かなりてこ入れしてまいりまして、おかげさまで高野町のところも、その根本的なところとして、用地を買収して水路を別に造らないと解決できなかったんですが、ようやくこちらに、もともと長井市の方だったんですが、もう既に都会のほうに行かれていて不在地主、そういった方々からご協力をいただいて、その工事を今年度やるということなので、具体的にかなり進んでおります。

あとまちなかの、それこそ30年も40年もしゅんせつしてなかったところを、少しずつやったりしておりますので、この辺についてはこれからも状況を見て、順次、少しずつきちんとやっていきますし、いずれ長井のまちなかの水路を生かすという視点から、そういった整備も行わなきゃならないと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

議員のほうからいただいた2点目の、近年、頻繁に水防活動に従事する消防団の装備としての、再度、ご提案ということで、渡部秀樹議員は消防団員として、現場で一生懸命活動いただいているということで、本当に頭が下がります。加えて、観光でも、実際、いろいろな提案だけじゃなくて、一緒になって観光協会であったり、アルカディア観光局と一緒に、例えばキャンプサウナとか、いろんな提案をいただいたり、実際にそういったことにご協力いただいたりということで、本当にありがたいように思っておりますが、消防団の活動でも本当に献身的なご尽力いただいております、

この場をお借りして厚く御礼を申し上げたいと思います。

緊急排水用のエンジン付水中ポンプの配備ですが、これ、以前からそういう話をいただいて、まず一つは、買えるわけですね。例えばこういう排水用のエンジン付水中ポンプがどうしても必要だという場合は、どういうふうにするかということとか、あとどこに配置しとくかとかあって、そういう問題は残りますが、基本的に緊防債といいますか、緊急防災・減債対策債、これが延長になりましたので、したがって、7割の支援を受けて買うことができます。

ただ、これらについて、やっぱり一つ言われていることは、基本的に災害が起きている、例えば集中豪雨で雨降っているときにはとても危なくて使えないんですね。例えばそういう堤防の上に置いて、いわゆる内水のところの水を最上川の本流のほうに流さなきゃいけない。非常に危険を伴うということで、大体、通常はある程度収まってから排水するんですね。それについては、この辺ですと山形河川国土事務所、国土交通省ですね、そちらのほうで常設していただきました。ですから、置賜地区にも2台、これは大型のやつあると。

あと山形県のほうでも、昨年度とか整備いただいて、そういったものも置賜のほうに何台か配置いただきました。これは相当大きなやつなんです。こういったところを、大体、置賜の場合ですと、やっぱり最初は南陽市とか高島町辺りが結構被害が出やすいんですが、だんだん時間が経過すると、今度、下流側の長井市とか白鷹町になるんですね。ですから、そういったところで時間差で、あるいは状況によって一番大変なところにそれを配置して排水することとはできると思いますが、一方で、こういった割と、移動式の簡単にできるものも確かに必要だと思います。

本来、以前にも申し上げたと思うんですが、

太平洋側の東北では、宮城県とか福島県はそういう、常時、内水被害で水が上がるころについては、もう最初からポンプつき、ポンプつきというか水中ポンプが設置してあるんですね。ですから、そうなったときはスイッチ一つで自動にすると、そうすると危険性がないわけですね。それをこの山形県、日本海側でもできないかということ、山形県でやっているところはないんだそうです。ですが、だからできないということではないと思いますので、今後、常備消防のほうとも相談しながら、あとは消防団そのものからやっぱりきちんと正式に依頼がないと、こちらで議員から要望があったから設置したから使ってくださいというだけでも、これはまずいのかなと思っておりまして、その辺の調整をしながら、団のほうとしても正式に要望いただければ、これは必要だということで、配備する必要があると思います。

続きまして、3点目の災害級の豪雪時の対策についてということでございますが、これ、議員のほうから写真入りのものなども頂きましてありがとうございます。尾花沢市の事例とか東根市の事例、これは東根市の事例は水中ポンプですね。尾花沢市の除雪の作業のほうでございますが、こういった事例なども紹介いただきました。

議員が懸念されております、すみません、できるだけ早く話さないといけないな、災害級の豪雪が想定される場合には、まずは県と協議の上、自衛隊法に基づいて、国に要請いただき、自衛隊派遣に頼らざるを得ないと。災害級の豪雪のときですね。なかなかこれを地元の消防団に依頼するってのは、あんまりそういう例がないと聞いておりまして、尾花沢市の場合も、これ、ちょっといろいろ情報としてお聞きしましたところ、平成30年の3月、尾花沢市で行われた消防団にある高齢者住宅等の除雪作業ということで、写真があったわけですが、尾花沢市の

消防本部に問い合わせしましたところ、その日は消防記念日の行事が大雪で中止になったために、参加予定であった消防団員が5分団、地区あるそうでございますが、それぞれの地区ごとに分かれて、それぞれの判断で積雪の多いところを除雪作業したということでございまして、その後、消防団の高齢者住宅の除雪作業といったことは行ってないということでございました。やはり尾花沢市におきましても、私どもと同様に、消火栓や貯水槽、消防ポンプ車等の除雪を行う、本来の業務である火災等に備えているということで、除雪そのものは、たまたまだということでございまして、やはり除雪は、今回も北陸はじめ、いろんなところですごいありましたね、車が渋滞して動かないとか。即、自衛隊なんですね。やっぱり消防署、団ではなかなか、難しいと。そういう装備がないんですよ。

こういったことのようにございますので、なお、いざというときに、やっぱりボランティアでということは十分あるかと思っておりますので、この辺は消防団の幹部の皆さんと相談して、ご協力をお願いするということになると思います。

最後に、観光振興事業関連でございますが、獅子舞の活用等についてということで、これはごもつともございまして、獅子舞文化のPRのために、長井市の各神社、団体等が所有する獅子頭をお借りしながら、長井駅やタス、道の駅などで展示、紹介、交流イベント等を実施してはいかがかと、そのとおりでございます。道の駅でも1回やったこともありますし、あと長井駅でも大変大きい獅子頭を寄贈いただいて、展示などしております。

今後でございますが、やっぱり私どもの場合は、市が全て観光を担うということではなくて、長井市観光協会とやまがたアルカディア観光局と行政とで役割分担しながらやっておりますので、この辺のところは一体となって取り組んで

いくべきものと思っておりますので、ただ、こういうPRは議員おっしゃるとおりでございますので、私どもでも引き続き機会を見て、きちんとやっていかなきゃいけないと思ひますし、特に黒獅子については、大変な資源でございますので、これを生かしていまいりたいと思ひます。

なお、議員からいただきました黒獅子まつりのときの周遊バスですね、これは市民の皆さんがなかなかまちなかに来るのに駐車場が混んでてということなものですから、これらについては、ぜひ市民バス、5台あるわけですけども、このバスをフル回転で使って、その日、ご利用いただけるように、そんな検討をすべきかなと。それですと人件費はかかりますけども、バス代とかかかりませんし、ぜひ、そんなことで、早速、来年度あたりからやっていきたいと思ひますし、あとそのほか、いろんな提案をいただきました。

ポケットモンスターのラプラス型足こぎボートの運航とか、あるいはご寄附いただいた芸術作品のデジタルアーカイブの文化芸術観光の推進とか、こういったところについても、なお、古代の丘ですとか、あとアーカイブについてはちょっと人手が足りなくて、この辺のところはやはり文教の杜ながいなんかとも協力体制を取りまして、検討を今後していきたいと思ひますので、ひとつよろしくお願ひいたします。

ちょっと長くなりましたけど、以上でございます。

○浅野敏明議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 私には、スマートシティ長井実現事業と学校教育、それから、黒獅子のお祭りと学校教育、この2点についてご質問いただきました。

まず1点目でございますが、今の子供たち、近い将来、Society 5.0の社会の中で生きることになります。本市の取組を通して、身

近な生活の中で地域の人が新技術を活用して課題を解決する姿に、子供たちが学ぶ、この価値は大変大きいと思います。学校で取り組んでいるGIGAスクール構想による学習体験と重ね合わせながら、子供たちの感性や創造性で、私たち大人たちが考えも及ばない新しい価値をつくり出してもらったらうれしいなど、そんな夢も広がっているところです。

具体的な事業の絡みの中でもたくさんあるんですけども、例えばeスポーツの取組ですけども、ゲーム三昧になるのではという大人の声はよく耳にしますけども、メディアリテラシーの獲得ですとか、長井にいて世界の人々とつながるという体験など、様々な可能性を秘めたものだとは私は思っております。学校で展開している学習活動に意図的に結びつけながら、スマートシティに生きる未来を担う子供の成長に結びつけたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

2つ目でございます。3年ぶりに黒獅子まつりが行われました。その中で、笛を吹いたり、太鼓をたたいたりしている子供たちの生き生きとした姿を見て、私も胸が熱くなりました。渡部議員の姿を見て、胸が熱くなりました。

それから、何よりもおじいちゃん、おばあちゃんですとか、うちの人が子供を見て一生懸命手をたたいている、ああ、すごく地域の一体感を感じるすばらしいお祭りだなと思います。地域の子供たちが、その伝統的な文化に触れ、文化を継承していく、これは一生の宝になることであると思ひますし、学校も大事にしたいと思ひます。

小学校では、黒獅子まつりの際には、今の感動を踏まえながら、希望者を募って、子供獅子や獅子踊りの舞を披露していると、そんなこともあります。総合的な学習の中で、学習発表会でも披露しております。

また、中学校ですけども、実は少年の主張大

会、ここでこの黒獅子をテーマにして発表している子が結構いるんです。そのようなことですか、かつて文化祭でオープニングセレモニーで、この黒獅子を舞った子が、今、あるところの警護をやっています。それから、長井北中学校では、大田区にお獅子を持って行って、黒獅子を紹介したということ、それぞれが大きな価値になっているし、宝になっているなと思ひます。

このようなことから、学校では積極的な地域行事への参加の呼びかけはもちろんのことですけども、部活動、諸活動をまず優先して、地域の行事への参加、これも各学校より子供たちに指導しているところですので、いっぱい引っ張っていただきたいと思ひます。学校でも大いに協力したいと思ひます。

○浅野敏明議長 8番、渡部秀樹議員。

○8番 渡部秀樹議員 様々項目多くて、誠に申し訳なかったです。どうしても9月議会で聞くのはちょっと遅いかなと思ひすることが多かったので、多くなりました。

私はもう質問というよりはお願いとなります。このスマートシティという流れですね、デジタル化という流れ、今回、私の質問の流れというのは、基本的にはデジタル化の流れ、その中で、あと歴史的なものも大事にして、地域の結びつきを大事にしていこうという、地域一丸となった活動という部分に集約されております。デジタル技術活用して、ICTですとかGIGAスクール構想ですとかしながら、防災関係で地域を守って、安全に暮らせる生活をみんなで維持しながら、そして、地域の資源という自然や町場、そして、歴史的なものをみんなで大事にして、みんなで生きていける環境を構築できるというのが一番の地方行政の姿だと、自治体の姿だと私は思ひます。

ですので、市長はじめ当局の皆様、そして、教育長、学校の先生方にも、今日、お話あった

ような内容をもうみんなで共有していただきたいと思う次第であります。長井市において、この市長と教育長というのはその部門のトップです。そのお二方がそういう思いでいてくれれば、長井市は必ずいい方向に向かうであろうと思います。あと今回、9月に持ち越さずに質問できてよかったなと思うところであります。

あと水防のことに関しては、すごくお金もかかりますし、段階的のところ、消防団と連携、もちろん必要です。ですが、時代の流れとして、私ちょっと一般質問で少し入れましたけども、かつてとは違うのだという状況に、今、来ていて、教える側もいなくなっているって、大人も子供も減ってきているというのが現状かと思えます。なので、なおさら情報を一元化して、みんなで手を取り合っていくしかないのかなと思います。

私からの一般質問は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

散 会

○浅野敏明議長 本日は、これをもって散会いたします。

再開は、明日午前10時といたします。ご協力ありがとうございました。

午後 4時09分 散会